

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2001-175731

(43)Date of publication of application : 29.06.2001

(51)Int.Cl.

G06F 17/60

G06F 9/06

G06F 19/00

(21)Application number : 11-358507

(71)Applicant : HITACHI LTD

(22)Date of filing : 17.12.1999

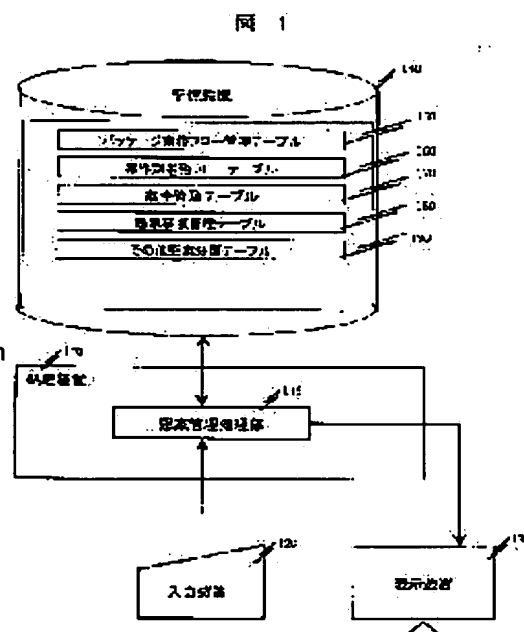
(72)Inventor : OMURA MASAKO
FUKUDA MUNETATSU
TAKAHASHI NAOKI

(54) METHOD FOR MANAGING PENDING MATTER WHEN INTEGRATED WORK PACKAGE IS INTRODUCED

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To support to produce new work flow on the basis of work flow presupposed by a package in accordance with the work important matter of a customer when the software of an ERP(Enterprise Resource Planning) package, etc., is introduced.

SOLUTION: The work flow presupposed by the package is displayed on a display device 130 by referring to a package work flow table 150. The new work flow is produced from the work addition, correction and elimination information on the work flow inputted through an input device 120 on the basis of the work important matter of the customer and stored in each different important matter work flow table. Important matter information inputted through the device 120 is stored in an important matter management table 170. The attributes of the pending matter inputted through the device 12 are stored in a pending matter management table 180, made to correspond to the new work flow and displayed on the device 130.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

19.03.2003

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's
decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号
特開2001-175731
(P2001-175731A)

(43) 公開日 平成13年6月29日 (2001.6.29)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テーマコード* (参考)
G 0 6 F 17/60		G 0 6 F 9/06	5 3 0 T 5 B 0 4 9
9/06	5 3 0	15/21	Z 5 B 0 7 6
19/00		15/22	L
			J
			3 1 0 A
審査請求 未請求 請求項の数1 O L (全 11 頁)			

(21) 出願番号 特願平11-358507

(22) 出願日 平成11年12月17日 (1999. 12. 17)

(71) 出願人 000005108

株式会社日立製作所

東京都千代田区神田駿河台四丁目6番地

(72) 発明者 大村 昌子

神奈川県川崎市幸区鹿島田890番地 株式

会社日立製作所システム開発本部内

(72) 発明者 福田 宗龍

神奈川県川崎市幸区鹿島田890番地 株式

会社日立製作所システム開発本部内

(74) 代理人 100075096

弁理士 作田 康夫

最終頁に続く

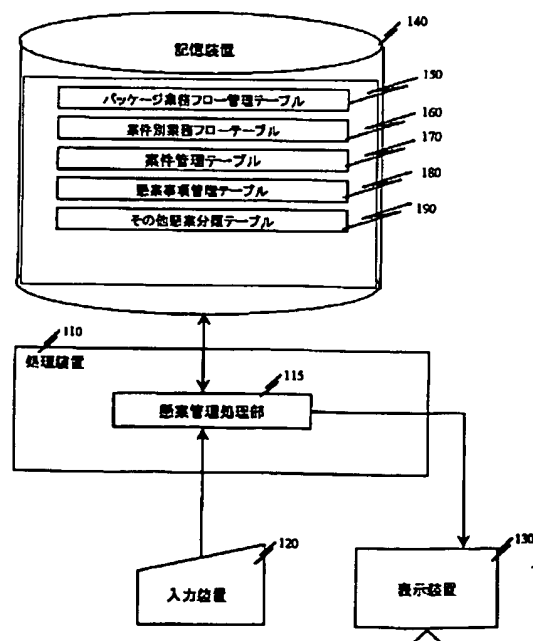
(54) 【発明の名称】 統合業務パッケージ導入時における懸案事項管理方法

(57) 【要約】

【課題】 ERP (Enterprise Resource Planning) パッケージ等のソフトウェアを導入時に、パッケージが前提とする業務フローをもとに顧客の業務要件に応じて新業務フローを作成することを支援する。

【解決手段】 パッケージ業務フローテーブル150を参照してパッケージが前提とする業務フローを表示装置130に表示する。顧客の業務要件などに基づいて入力装置120を介して入力される、業務フローの作業の追加・修正・削除情報から新業務フローを作成し、案件別業務フローテーブルに格納する。入力装置120を介して入力される案件情報を案件管理テーブル170に格納する。入力装置120を介して入力される懸案事項の属性を懸案事項管理テーブル180に格納し、新業務フローと関連付けて表示装置130に表示する。

図 1



【特許請求の範囲】

【請求項1】 ERP (Enterprise Resource Planning) パッケージ等のソフトウェアを導入する上で生じる顧客の懸案事項を管理するシステムであり、パッケージが前提とする業務フローを顧客業務要件等に応じて追加・削除・変更する情報を入力する入力手段とその結果を新業務フローとして記憶する記憶装置と、顧客の懸案事項の属性（内容、回答期限、回答責任者、状態、対策など）を新業務フローと関連付けて入力する入力手段と入力結果を記憶する記憶装置と新業務フローとの関連付けが困難な懸案事項に対しては、あらかじめ記憶装置に記憶してある懸案事項分類（「人」「モノ」「カネ」等）にしたがって分類を選択入力する入力手段を持ち、懸案事項分類を懸案事項属性として記憶する記憶装置をもち、懸案事項を記憶装置から呼び出し、新業務フロー上に懸案事項を表示する表示装置をもつ懸案事項管理方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、ERP (Enterprise Resource Planning) 等のパッケージを導入する適用設計（業務設計）を行う上での新業務フローの作成支援および顧客懸案事項を管理する方法に関する。

【0002】

【従来の技術】ここ数年来、企業の情報システムや情報の統合を実現するERPパッケージが普及してきている。ERPパッケージでは、業務システムを実現するための仕組みが提供されているため、実際に導入する上で、顧客ニーズ（顧客業務要件）とパッケージ標準仕様とのギャップが生じることが多い。その結果として、様々な顧客懸案事項が発生する。従来、この対処方法として、パッケージに精通しているコンサルタントやSEが顧客の要求をヒアリングしながら、顧客の目的や要求、解決課題などを整理し、コーディネートして進めている。このような、パッケージ導入時のコーディネートは比較的個人のスキルに依存したものとなっており、ERPパッケージの普及を踏まえると、スキルを持った人材育成が急務となっている。

【0003】パッケージ導入時に発生する懸案事項は通常、一件一葉／一覧表形式で管理される。記載内容は、懸案内容、回答期限、回答責任者、懸案事項の状態（回答済みか否か等）、対策などである。

【0004】これらの懸案事項を解決しなければ、新業務の設計を進めることができない。

【0005】管理者は、回答／未回答をチェックし、回答期限がきており、回答されていないものについては回答責任者にフォローする。各懸案事項に対する回答内容はパッケージ導入に関わるプロジェクトメンバー間で合意の上、プロジェクトはすすめられる。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】従来の表形式／一件一葉形式による管理では、ERPパッケージ導入の対象業務範囲が広くかつ複雑になってくると、各懸案事項が何の業務でどのような場合に起こりうることであるかが把握しにくく、プロジェクトメンバー間でも、懸案に対する認識の不一致が生じる。

【0007】そのため、顧客に対して懸案事項の回答要求をしたり、回答の内容を確認する際、懸案事項の内容が対象業務のどの部分でおきているのかを、業務フローなどの業務の流れが分かる資料を複数見比べながら進めるということを行っていた。

【0008】これは、大変効率が悪い。

【0009】本発明では上記問題点を解決するために、統合業務パッケージが前提としている業務フローをもとに新業務フローを作成し、新業務フローの作業と関連付けて懸案事項を表示し、管理する。

【0010】また、業務フロー上で懸案事項を表示・管理するだけでなく、回答期限や懸案事項の状態によりソートして一覧表示する。

【0011】これにより、プロジェクトメンバー間で懸案の回答要求、回答確認の際、懸案に対する共通認識がしやすく、懸案事項の管理が効率的に進む。

【0012】

【課題を解決するための手段】上記目的を達成するために本発明は、統合業務パッケージが前提とする業務フローを業務フローを構成する作業ごとにID管理し、顧客の業務要件に応じて新業務フローを作成する支援を行う。懸案事項が発生するごとに、当該新業務フロー上の当該作業に懸案事項をリンク付けし、懸案事項の属性を登録する。これによって、新業務フロー上に懸案事項が発生していることを示す吹き出しを表示し、懸案事項に対する内容、回答期限、対策などの情報が確認可能となる。また、必要に応じて、懸案事項の属性（回答期限や懸案事項の状態（回答済みか否か等））を利用し、ソートして一覧表示する。

【0013】また、パッケージが前提とする業務フロー上との関連付けが困難な懸案事項（例えば、組織体系をどうするか、インフラをどうするか、といったこと等）は、あらかじめ用意してある分類（ヒト、カネ、モノ等）で管理する。これにより、パッケージ導入に際し発生しうる懸案事項をもれなく管理可能となる。

【0014】業務フローに関連する懸案事項と、ヒト、カネ、モノ等に分類した懸案事項は包括的に管理し、一覧形式での表示も可能とする。

【0015】

【発明の実施の形態】以下に本発明の一実施形態について図面を用いて説明する。

【0016】図1は業務フローと関連付けて懸案事項を管理するシステム構成図である。図1において、本システムは処理装置110と処理装置110に接続される記憶装置

140と入力装置120と表示装置130から構成される。懸案管理処理部115は処理装置110の主記憶装置に格納され、以下に詳述する処理を行う上でのアプリケーションプログラムである。

【0017】記憶装置140上には、図示するようにパッケージ業務フロー管理テーブル150からその他懸案分類テーブル190までの各種テーブルが格納される。

【0018】パッケージ業務フロー管理テーブル150は、パッケージが前提とする業務フローの作業名等を格納する。案件別業務フローテーブル160は案件別にパッケージ業務フローが追加・変更された新業務フローの作業名などを格納する。案件管理テーブル170は、案件名と当該案件に関与する業務情報を格納する。懸案事項管理テーブル180は懸案事項の属性を格納する。その他懸案分類テーブル190は、業務フローと関連付かない懸案事項の分類項目を格納する。

【0019】入力装置120は各画面に表示された項目の選択を受け付ける装置であり。表示装置130は、業務フロー図や懸案事項の一覧などを表示する装置である。

【0020】図2は本システムの処理手順を示すフローチャートである。

【0021】図3はパッケージ業務フロー管理テーブル150のデータ構成を示す図である。

【0022】図3において、業務ID310は対象業務を区別する識別コードであり、対象業務320はパッケージが備えている業務の種類であり、作業ID330は当該業務に属する各作業を区別する識別コードであり、作業名340は当該業務に属する各作業の作業名である。

【0023】図4は案件別業務フロー管理テーブル160のデータ構成を示す図である。図4において、案件ID410は案件名を区別する識別コードであり、業務ID420は図3における業務ID310であり、作業ID440は図3における作業ID330であり、新作業名445はパッケージ業務フロー管理テーブル150の作業名340、もしくはユーザに新規追加された作業の名称である。

【0024】削除フラグ450は、パッケージが備えている作業が編集により削除されたかどうかを区別するフラグである。

【0025】図5は案件管理テーブルのデータ構成を示す図である。図5において、案件ID510は案件名を区別する識別コードであり、案件名520は案件の名称である。販売管理530、原価管理540および会計管理550は、パッケージが備えている業務に対して当該案件に関与するかどうかを示すフラグであり、パッケージが備える業務の数に応じて、530、540、550のような列が必要になる。すなわち、本実施例ではパッケージが備える業務の数は3とする。図6は懸案事項管理テーブル180のデータ構成を示す図である。図6において、懸案事項管理No.610は懸案事項を区別する識別コードである。案件ID620は図5における案件ID510であり、懸案事項分類

630は業務フローに関連する懸案事項が業務フローに関連しない懸案事項かを区別する識別コードであり、対応作業ID640は、当該懸案事項が対応する作業ID330であり、見出し645は懸案事項の内容の見出しであり、懸案内容650は懸案事項の内容であり、懸案ステータス660は懸案事項が回答されたか、対策済みか、などの状態であり、発生日670は、懸案が発生した年月日であり、回答期限680は当該懸案事項に対する回答期限年月日であり、回答責任者690は当該懸案事項の回答責任者氏名であり、対策695は当該懸案事項に対する対策内容である。

【0026】図7はその他懸案分類テーブル190のデータ構成を示す図である。図7において懸案分類ID710は業務フローに関連付けることが困難な懸案事項を分類するための分類区分を識別するための識別コードであり、分類名720は懸案事項を分類するための分類名称である。

【0027】図8～図15は本システムの処理画面イメージを示した図である。

【0028】以下、図2のフローチャートおよび図8～図16の処理画面イメージを利用して本システムの詳細処理内容を説明する。

【0029】本システムが起動されると、図8の懸案事項管理システムメニュー画面を表示装置130に表示する（ステップ205）。図8において810は新規に案件登録を指示するボタンであり、820は既に登録されている案件に関する業務フローや懸案事項の編集を指示するボタンであり、830は本システムの終了を指示するボタンである。

【0030】メニュー選択（ステップ210）において、「終了」ボタン830が押下されると、本システムを終了する。

【0031】メニュー選択（ステップ210）において、「案件登録」ボタン810が押下されると案件登録画面（図9）を表示する（ステップ215）。図9において、910は案件名を入力する入力領域であり、920は対象業務を選択する領域であり、複数選択が可能とする。案件名が入力され、対象業務が選択された後、「OK」ボタン930が押下されると、案件管理テーブル170に入力内容を登録する（ステップ220）。これにより、案件管理テーブル170の案件ID510は自動採番され付与され、図9の910に入力されたデータが案件名520に格納される。920で選択された業務名に対応する、案件管理テーブル170の530、540、550列に「1」を格納する。選択されない業務名に対応する列には「0」が格納される。また、選択された業務に対応するパッケージ業務フロー管理テーブル150から案件別業務フロー管理テーブル160を生成する。

【0032】案件ID410は、案件管理テーブル170の案件ID510が格納される。

【0033】業務ID420には、選択された業務の業務ID320が格納される。業務IDをキーにしてパッケージ業務フロー管理テーブル150の該当するレコードを検索し、作業ID330、作業名340を、案件別業務フロー管理テーブル160の作業ID440、新作業名445にそれぞれ格納する。削除フラグ450には'0'が設定される。

【0034】図2のメニュー選択210において、図8の「既存案件管理」ボタン820が選択されると案件・作業選択画面（図10）を表示する（ステップ225）。図10において1010は既に登録されている案件名から当該案件名を選択する領域であり、「懸案事項一覧参照」1020ボタンは、懸案事項の一覧形式による表示を指示するボタンであり、作業選択（ステップ230）において、これが押下されると当該案件IDをキーにして、懸案事項管理テーブル180から一致するレコードを検索し、該当するレコードを図16の懸案事項一覧表示画面に表示する（ステップ240）。

【0035】図16において、1610、1620、1630、1640、1650、1660は懸案事項の属性である。図16において、懸案事項管理No.1610は懸案事項管理テーブル180の懸案事項管理No.610であり、懸案分類1620は懸案事項管理テーブル180の懸案事項分類630であり、見出し1630は懸案事項管理テーブル180の見出し645であり、発生日1640は懸案事項管理テーブル180の発生日670であり、回答期限1650は懸案事項管理テーブル180の回答期限680であり、ステータス1660は懸案事項管理テーブル180の懸案ステータス660である。

【0036】図16において、1610、1620、1630、1640、1650、1660の属性のいずれかを選択し、「ソート」ボタン1680が押下されると、選択された属性をキーにしてソート表示する。例えば、回答期限1640を選択して「ソート」ボタン1680を押下すると、回答期限が早い順（あるいは遅い順）にソートして表示する。

【0037】図10において、「業務フロー編集」ボタン1030は当該案件の業務フローの編集を指示するボタンであり、作業選択（ステップ230）において、これが選択されると業務フロー選択画面（図11）を表示する（ステップ235）。図11において、1110は編集を行う業務フローを選択する選択領域であり、「OK」ボタン1120は1110での選択結果を確定し、当該業務フローの表示を指示するボタンである。

【0038】図11の1110の選択領域において、「その他」以外の業務名が選択された場合には（ステップ245）、案件別業務フロー管理テーブル160をもとに図15の業務フローを表示する（ステップ250）。図15は業務フロー図の例である。図15において「業務フロー選択」ボタン1570が押下された場合には（ボタン受付（1）ステップ260）、再び業務フロー選択画面（図11）を表示する。ボタン受付（1）ステップ260で「終了」ボタンが押下された場合には本システムを終了す

る。

【0039】図15において、ある作業が選択され、「作業の削除」ボタン1540が押下された場合には、当該作業の削除処理として案件別業務フローテーブル160の削除フラグ450に'1'を格納する。これにより、削除フラグが'1'である作業については、以降表示しない。

【0040】図15において、ある作業が選択され、「作業の挿入」ボタン1530が押下された場合には、作業の挿入処理として、当該作業の前に空白の作業を示す箱を表示する（図15の1525）。ユーザからの作業名の入力を受け、案件別業務フローテーブル160の最終行にレコードを1行追加する。この際、案件別業務フローテーブル160の作業ID440は、追加されたレコードであり既存の作業IDと区別するIDを自動付与する。案件別業務フローテーブル160の新作業名445には、ユーザから入力された作業名を格納する。

【0041】図15において、ある作業が選択され、「作業の編集」ボタン1550が押下された場合には、作業の編集処理として、当該作業を表示領域から入力領域とする（図15の1510）。ユーザからの作業名の入力を受け、案件別業務フローテーブル160の当該作業の新作業名445に格納する。

【0042】図15において、ある作業が選択され、「懸案事項編集」ボタン1560が押下された場合には、（ボタン受付（1）ステップ260）懸案事項詳細画面（図12）を表示する（ステップ280）。

【0043】当該作業に懸案事項がなにも関連していない場合には、入力領域が空欄の懸案事項詳細画面を表示する。既に懸案事項が関連している場合には、懸案事項管理テーブル180から当該作業と同じ作業IDのレコードを検索してデータを表示する。

【0044】図12において、1210は懸案内容を端的に表す見出しを入力する入力・表示領域であり、1220は懸案内容を入力する入力領域であり、1230は懸案の発生日を入力する入力・表示領域であり、1240は懸案の回答期限を入力する入力・表示領域であり、1250は、懸案の状態（懸案発生、回答待ち、対策済み等）の情報を入力する入力・表示領域であり、1260は懸案の回答責任者名を入力する入力・表示領域であり、1270は、対策（回答の結果）を入力する入力・表示領域である。1210～1270の入力領域に入力された内容を懸案事項の属性として管理する。懸案事項の「登録」ボタン1280は、入力内容を懸案事項管理テーブル180に格納することを指示するボタンである。図12の懸案事項詳細画面において、入力項目が入力され、「登録」ボタン1280が押下されると（ボタン受付（2）ステップ285）、懸案事項管理テーブル180の懸案事項管理No.610は案件毎に自動採番された識別番号が、案件ID620には当該案件IDが、懸案事項分類630には業務ID420が、対応作業ID640には当該作

業の作業 I D440が、見出し645には図 1 2の1210で入力された見出し内容が、懸案内容650には図 1 2の1220で入力された懸案内容が、懸案ステータス660には、図 1 2の1250で入力されたステータスが、発生日670には図 1 2の1230で入力された発生日が、回答期限680には図 1 2の1240で入力された回答期限が、回答責任者690には図 1 2の1260で入力された回答責任者が、対策695には図 1 2の1270で入力された対策がそれぞれ格納される（ステップ290）。

【0045】登録後、懸案事項詳細画面（図 1 2）が閉じられ、業務フロー表示画面（図 5）に戻る。業務フロー表示画面（図 1 5）において、当該作業に関連付けて吹き出しを表示し、吹き出しの中に追加された懸案事項の属性（懸案事項No.、見出し、回答期限、ステータス等）を表示する（図 1 5の1520）。

【0046】当該作業に対して複数の懸案事項が関連している場合に、図 1 2の懸案事項詳細画面において、「次の懸案」ボタン1295が押下された場合には、（ボタン受付（2）ステップ285）、懸案事項管理テーブル180の対応作業 I D640が当該作業と同じレコードを検索して、懸案事項詳細画面に表示する（ステップ288）。

【0047】図 1 2の懸案事項詳細画面において、「キャンセル」ボタン1290が押下された場合には、（ボタン受付（2）ステップ285）、懸案事項詳細画面を閉じて業務フロー表示画面（図 5）に戻る。

【0048】図 1 1の1110の選択領域において、「その他」が選択された場合には（ステップ245）、業務フローと関連付けることが困難な懸案事項に関する編集であり、図 1 3のその他懸案事項一覧画面を表示する（ステップ292）。

【0049】図 1 3において1310～1360は図 1 4のその他懸案事項詳細編集画面で入力または選択入力された内容を表示する表示領域である。

【0050】図 1 3において、「業務フロー選択」ボタン1390が押下された場合は（ボタン受付（3）ステップ294）、業務フロー選択画面表示（ステップ235）へ戻る。

【0051】図 1 3において、「終了」ボタン1395が押下された場合は（ボタン受付（3）ステップ294）、本システムを終了する。

【0052】図 1 3において、「新規懸案事項追加」ボタン1380が押下された場合、および懸案事項一覧のある行が選択され「既存懸案事項編集」ボタン1385が押下された場合は（ボタン受付（3）ステップ294）、その他懸案事項詳細編集画面（図 1 4）を表示する（ステップ296）。この際、「新規懸案事項追加」ボタン1380が押下された場合には1420～1470の入力領域が空欄の画面（図 1 4）を表示する。

【0053】「既存懸案事項編集」ボタン1385が押下された場合には、当該懸案事項の懸案事項管理No.をキー

にして、懸案事項管理テーブル180を検索し、一致するレコードのデータをその他懸案事項詳細編集画面（図 1 4）に表示する。図 1 4における1410～1470に入力された項目は、懸案事項の属性として管理する。

【0054】図 1 4において、1410はその他懸案事項の分類を選択する領域であり、1420はその他懸案事項を端的に表す見出しを入力する入力・表示領域であり、1430はその他懸案事項の内容を入力する入力・表示領域であり、1435は懸案事項の発生日を入力する入力・表示領域であり、1440は回答期限を入力する入力・表示領域であり、1450はその他懸案事項の状態（懸案発生、回答待ち、対策済み等）の情報を入力する入力・表示領域であり、1460は回答責任者を入力する入力・表示領域であり、1470はその他懸案事項の対策（回答の結果）を入力する入力・表示領域である。「登録」ボタン1480は図 1 4において入力された内容を懸案事項管理テーブル180に登録することを指示するボタンである。「登録」ボタン1480が押下されると（ボタン受付（4）ステップ298）、懸案事項管理テーブル180の懸案事項管理No.610には、業務フローと関連する懸案と区別され、かつ案件毎に自動採番された識別番号が格納される。

【0055】懸案事項管理テーブル180の案件 I D620には当該案件 I Dを、懸案事項分類630には、図 1 4の1410で選択された分類に対応する懸案分類 I Dをその他懸案事項管理テーブル190の710から検索して格納する。その他懸案事項の場合は対応作業 I D640には、何も格納しない。懸案内容650には図 1 4における1420に入力された内容が、懸案ステータス660には、図 1 4における1460で入力されたステータスが、発生日670には1435で入力された発生日が、回答期限680には1440で入力された回答期限が、回答責任者690には1450で入力された回答責任者が、対策695には1470で入力された対策内容がそれぞれ格納される（ステップ299）。

【0056】格納後、その他懸案事項一覧画面（図 1 3）に戻り、1310には、案件毎に懸案事項を識別する管理番号が、1320には1410で選択された懸案事項分類が、1330には1420で入力された見出しが、1340には1435で入力された発生日が、1350には1440で入力された回答期限が、1360には1460で入力されたステータスがそれぞれ表示される。

【0057】「キャンセル」ボタン1490が押下されると（ボタン受付（4）ステップ298）、その他懸案事項詳細編集画面を閉じてその他懸案事項一覧画面（図 1 4）に戻る。

【0058】

【発明の効果】ERPパッケージの業務フローの作業と関連付けて懸案事項を表示するので、懸案事項と作業との関連が理解しやすく、プロジェクトメンバー間で懸案内容に関する意識のずれが生じにくくなる。これまで、懸案一覧表と業務フロー（あるいは業務内容をあらわすも

の)の複数の情報によって理解していたものが、業務フロー(懸案記載済)だけを見れば理解できるようになり、プロジェクトメンバー間の合意形成が用意になり、作業効率が向上する。懸案事項の属性として、回答期限や懸案事項の状態(回答済か否か等)を管理しており、属性を用いてソートし、一覧表示することにより、パッケージ導入時の懸案事項確認などの管理作業効率が向上する。

【図面の簡単な説明】

【図1】実施形態の懸案事項管理システムのシステム構成図である。

【図2】実施形態の処理の流れを示すフローチャートである。

【図3】実施形態のパッケージ業務フロー管理テーブルのデータ構成を示す図である。

【図4】実施形態の案件別業務フロー管理テーブルのデータ構成を示す図である。

【図5】実施形態の案件管理テーブルのデータ構成を示す図である。

【図6】実施形態の懸案事項管理テーブルのデータ構成を示す図である。

【図7】実施形態のその他懸案分類テーブルのデータ構成を示す図である。

【図8】懸案事項管理システムのメニュー選択画面の事例を示す図である。

例を示す図である。

【図9】懸案事項管理システムの案件登録画面の事例を示す図である。

【図10】懸案事項管理システムの案件・作業選択画面の事例を示す図である。

【図11】懸案事項管理システムの業務フロー画面の事例を示す図である。

【図12】懸案事項管理システムの懸案事項詳細画面の事例を示す図である。

【図13】懸案事項管理システムのその他懸案事項一覧画面の事例を示す図である。

【図14】懸案事項管理システムのその他懸案事項詳細編集画面の事例を示す図である。

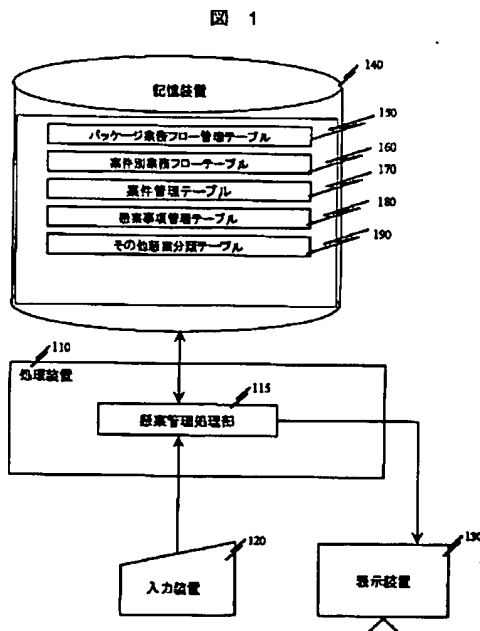
【図15】懸案事項管理システムの業務フロー表示画面の事例を示す図である。

【図16】懸案事項管理システムの懸案事項一覧表示画面の事例を示す図である。

【符号の説明】

110…処理装置、115…懸案管理処理部、120…入力装置、130…表示装置、140…記憶装置、150…パッケージ業務フロー管理テーブル、160…案件別業務フロー管理テーブル、170…案件管理テーブル、180…懸案事項管理テーブル、190…その他懸案分類テーブル。

【図1】



【図3】

図 3

案件ID	310	320	330	340	150
H	販売管理	SGH00001	販売計画立案		
H	販売管理	SGH00002	販売計画承認		
H	販売管理	SGH00003	引合/見積書		
H	販売管理	SGH00004	引合/見積書		
...		
K	原価管理	SGK00001	...		
K	原価管理	SGK00002	...		
K	原価管理	SGK00003	...		
...		

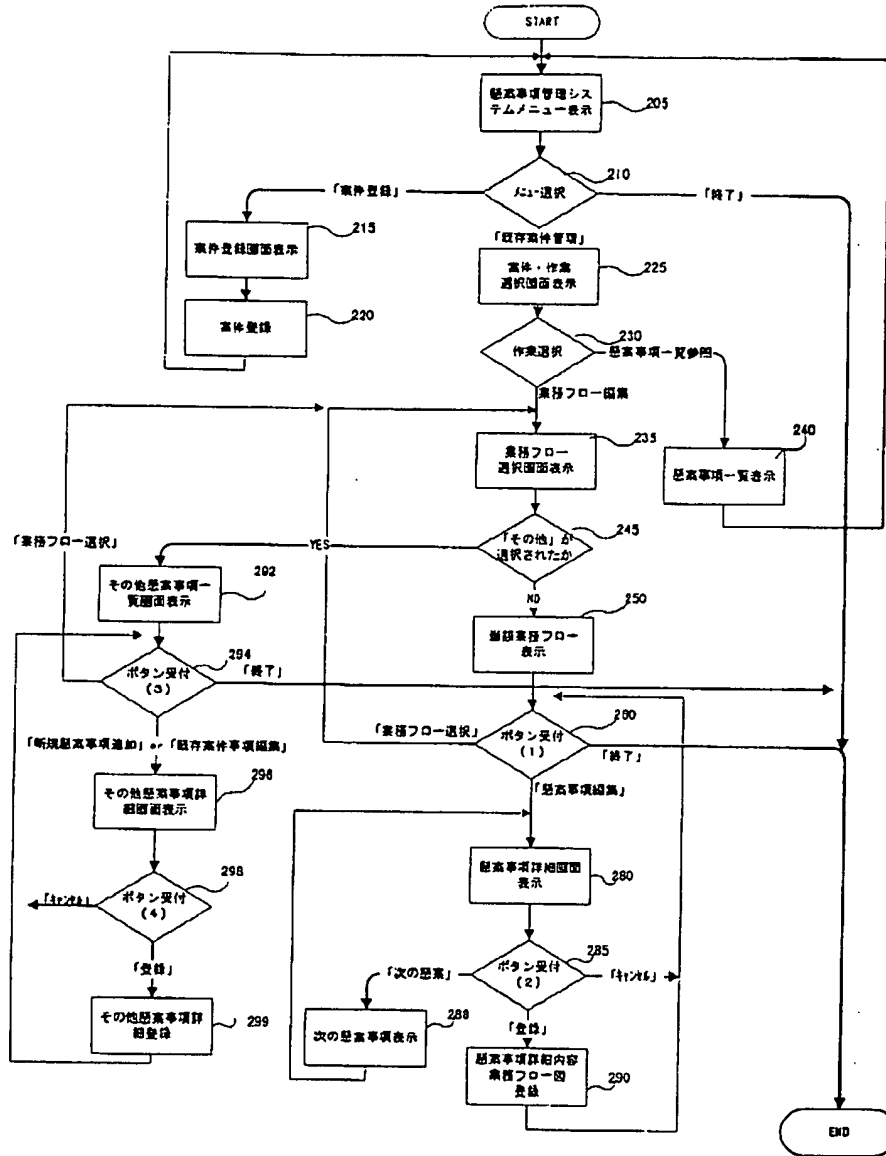
【図4】

図 4

案件ID	410	420	440	445	450	160
A000001	H	SGH00001	販売計画立案		0	
A000001	H	SGH00002	販売計画承認		0	
A000001	H	SGH00003	引合/見積書		0	
A000001	H	SGH00004	引合/見積書		0	
A000001		0	
A000001	K	SGK00001	...		0	
A000001	K	SGK00002	...		0	
A000001	K	SGK00003	...		0	
...		0	
A000001	K	SGK00001	販売計画立案		0	

【図2】

図 2



【図5】

図 5

案件ID	案件名	販売管理	所属管理	会計管理	170
A000001	〇〇株式会社				0
A000002	ABC株式会社				0
A000003	△△株式会社				0

【図7】

図 7

緊急分類ID	分類名	190
OTHER001	△	
OTHER002	全ノ	
OTHER003	力本	
OTHER004	技術	
OTHER005	取引先	
OTHER006	関係者	
OTHER007	所属	
OTHER008	環境	

【図6】

図 6

810 提案事項管理 No.	820 案件ID	830 提案事項分類	840 対応作業ID	845 見出し	850 提案内容	860 提案ステータス	870 発生日	880 回答期限	890 回答責任者	180 695
K00001	A000001	H	SGH000001	販売計画時の 計画について	顧客は、担当 者の販売計画 を立てたい が、担当者の 販売計画は、 無計画で、 スケジュール のずれが生じ ていない。 また、それぞ れ購買部門を おいている。 バックグラ ンドで購買 入後購買部門 を統合し、効 率化を図りたい か。	回答待ち	1999/7/1	1999/7/7	鈴木	...
KS00001	A000001	OTHER001	...	購買部門の統 合	...	回答待ち	1999/7/21	1999/7/30	佐々木	...

【図8】

図 8

選択してください

案件登録	110
既存案件管理	120
終了	130

【図9】

図 9

案件名を入力してください

〇〇電機(株)

対象業務を選択してください

販売管理	110
原価管理	120
会計管理	130
...	140

OK

150

【図10】

図 10

選択してください

ABC電機(株)	1010
〇〇電機(株)	1020
△△通信社(株)	1030
××薬品(株)	1040

販売事項一覧参照

業務フロー編集

【図11】

図 11

業務フローを選択してください。
ヒト、モノ、カネなど業務フローに直接関係しない業務事項の場合、該当する業務フローがない場合は「その他」を選択

案件名: 〇〇電機(株)

対象業務フロー一覧

その他	1110
販売管理	1120
原価管理	1130
会計管理	1140

OK

【図12】

販売事項管理NO.: K00001 販売事項分類: 販売業務

登録

作成作業名: 販売計画立案

キャンセル

次の画面

見出し: 販売計画時の画面について

内容: 顧客は、担当者の販売計画を立てたいが、担当者別の販売計画帳簿・画面はパッケージの標準機能でサポートしていない

発生日: 1999/7/1 回答期限: 1999/7/7

担当者: 鈴木

ステータス: 回答待ち

1210

1220

1230

1240

1250

1260

1270

1280

1290

1295

図 12

【図13】

登録事項管理NO	登録分類	提出し	提出日	調査期限	17-21
KS00001	人	購買部門の統合	1999/7/21	1999/7/30	回答待ち
KS00002	モノ	倉庫の統合	1999/7/21	1999/7/30	回答待ち
KS00003	人	パートの削減	1999/7/26	1999/7/30	回答待ち
...

図 13

【図14】

図 14

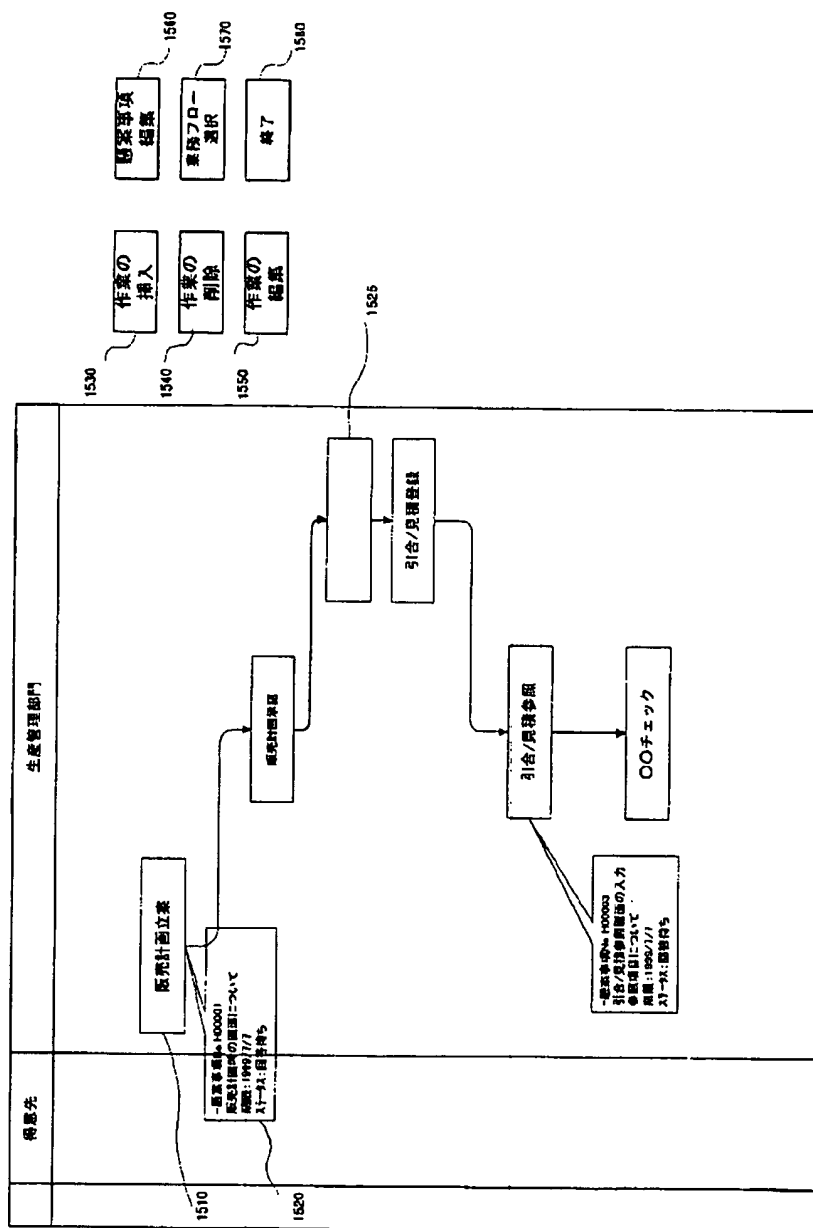
【図16】

登録事項管理NO	登録分類	提出し	提出日	調査期限	17-21
HD0001	販売戦略	販売計画時の...	1999/7/1	1999/7/7	回答待ち
HD0003	販売戦略	引き/見込参照...	1999/7/1	1999/7/7	回答待ち
KS00001	人	購買部門の統合	1999/7/21	1999/7/30	回答待ち
...

図 16

【図15】

15



フロントページの続き

(72)発明者 ▲高▼橋 直紀
神奈川県川崎市幸区鹿島田890番地 株式
会社日立製作所システム開発本部内

Fターム(参考) 5B049 BB07 CC21 DD01 EE05 FF03
FF04
5B076 DD02 DD04